

\* イースター増刊号 \*

皆さんは「イースター（Easter）」という言葉はご存じかと思えます。近年は、スーパーでも、卵のケースにカラフルなラベルがついて「イースター」の文字が見えますし、チョコレート菓子は「イースター」の特別バージョンが売り出されたりします。でも「イースター」とは何だろう？と思っておられる方もあるでしょう。



イースターとは、キリスト教の祝祭で、イエスが、十字架の死から復活したことを記念して行われます。「イースター」のことを、日本の（プロテスタントやカトリック）教会では「復活祭」と呼んでいます。「イースター」という呼び名は、ヨーロッパの古い言葉で「東＝Ostern」を意味する言葉に由来するのですが、更にこの言葉は、キリスト教がヨーロッパに浸透する前に人々の崇敬を集めていた「春の女神」の名に遡ります。イースターは春の到来と共に祝う、キリスト教の最も古い、キリスト教の起源を示すお祭りだからでしょう。

イースターはまた、クリスマスのように、毎年何月何日だと決まっている祭りではありません。西ヨーロッパのキリスト教の伝統の中では、「春分の日より後の満月の直後の日曜日」を復活祭としています。2020年は4月12日がその日でした。もしも例年通りにチャペル・アワーができていたら、学校では4月の最後のチャペル・アワーでお祝いする予定でした。

十字架の上で一度死んだはずのイエスが、死から3日目によみがえった、というお祝いのしるしに、「新しい命」のシンボルである卵が古くから使われました。また、ヨーロッパ中世以降、イースターに先立つ約7週間、イエスの「死」の苦しみに共感するため、として、特に食生活における厳しい節制が奨励されました。肉をはじめ、嗜好品（お菓子やお酒など）、乳製品が断食の対象でした。甘いお菓子で乳製品もつかうチョコレートは、イースター前の約2か月間、沢山の人が我慢したものの代表です。近代になって、この二つのシンボルを組み合わせた、チョコレート製の卵＝チョコ・エッグは、イースターの喜びを表す人気アイテムになりました。学校の「イースター・チャペル」でも毎年、チョコレート・エッグを皆さんにも配っていましたが、今年は残念ですがそれはできません。来年の「イースター・チャペル」を楽しみに待ってください。

「イエスが復活した」と信じるのが、キリスト教という信仰の起源です。「イエス・キリスト」という表現は、苗字と名前かとお考えの方もありませんが、そうではなく、「イエスはキリスト（復活した「救い主」である）」という信仰の告白の最も短い表現なのです。新約聖書の4つの福音書はどれも、この「復活」というフィナーレに向かって「イエス」という一人の歴史上の人物を主人公にした物語として記されています。チャペルと「キリスト教入門」の授業を通して、この物語に触れ、聖書の示す「信じる気持ち」についての知識を深めて下さるよう願っています。